

2023年7月1日

内閣府 令和5年度青少年の非行・被害防止対策リモート講演会・座談会

# インターネット利用における 「保護者の見守り」と 「子供のセルフコントロール」

江戸川大学 情報文化学科 玉田和恵

# Society 5.0時代を迎えるにあたって

新たな社会  
“Society 5.0”

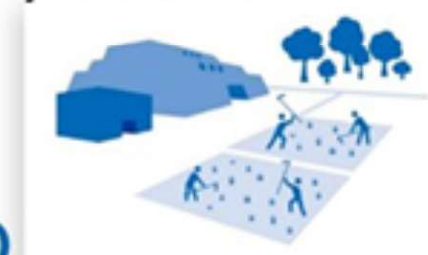
5.0



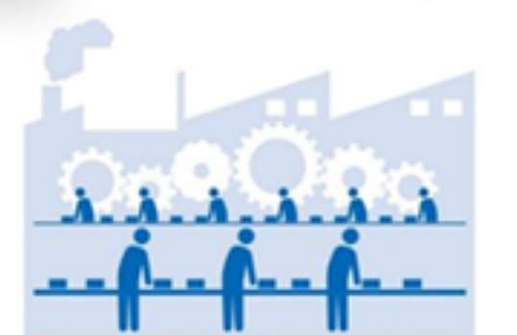
1.0  
Society 1.0 狩猟



2.0  
Society 2.0 農耕



Society 3.0 工業



3.0

4.0

Society 4.0 情報



# 高度情報人材を育成することが求められている

## 「第4次産業革命に向けた人材育成総合イニシアチブ」 ～未来社会を創造するAI/IoT/ビッグデータ等を牽引する人材育成総合プログラム～

資料2

- 「第5期科学技術基本計画（平成28年1月閣議決定）」において謳われている「超スマート社会」の実現、及び「理工系人材育成に関する産学官円卓会議における行動計画」等を踏まえ、関連施策の一体的な推進が求められている
- 生産性革命や第4次産業革命による成長の実現に向けて、**情報活用能力を備えた創造性に富んだ人材の育成が急務**
- 日本が第4次産業革命を勝ち抜き、未来社会を創造するために、特に喫緊の課題であるAI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ及びその基盤となるデータサイエンス等の人材育成・確保に資する施策を、初中教育、高等教育から研究者レベルでの包括的な人材育成総合プログラムとして体系的に実施**

参考：必要とされるデータサイエンス人材数(※)

- 世界トップレベルの育成 (5人/年)
- 業界代表レベルの育成 (50人/年)
- 棟梁レベルの育成 (500人/年)

- 独り立ちレベルの育成 (5千人/年)
- 見習いレベルの育成 (5万人/年)

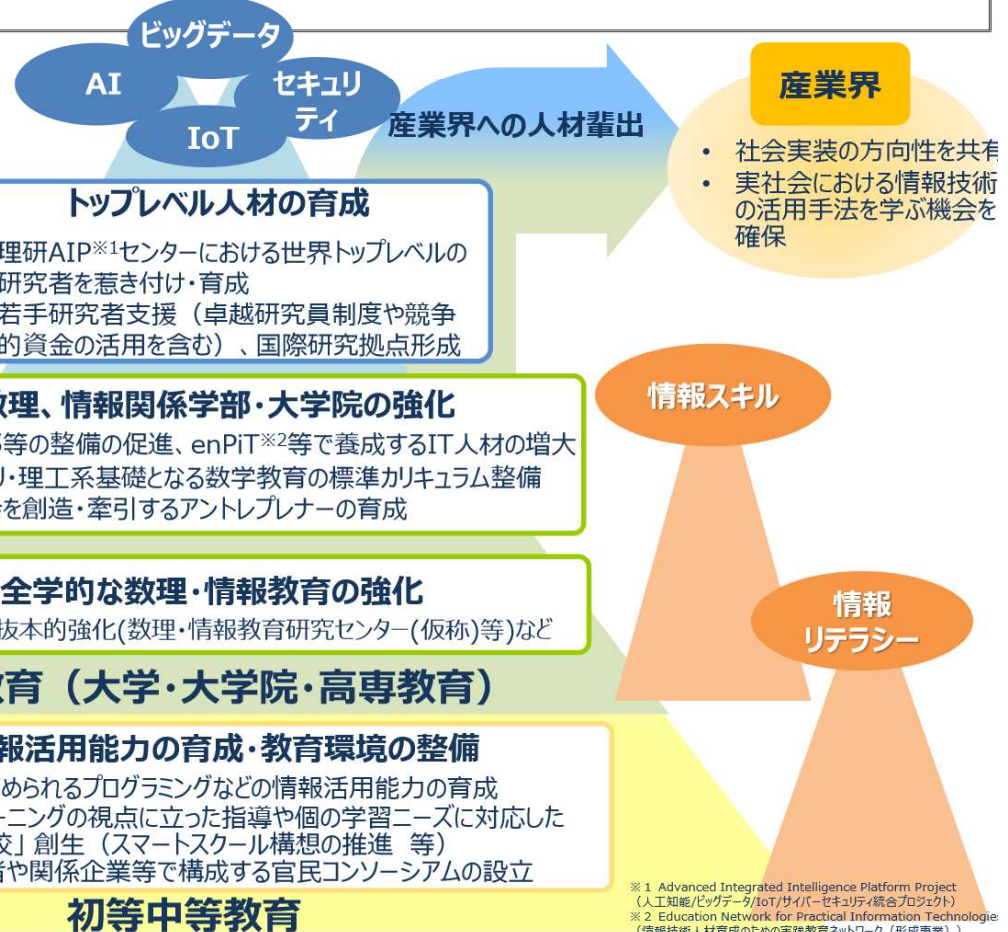
現状 (MGIレポート)  
日本：3.4千人  
US:25千人、中国：17千人

- リテラシーの醸成 (50万人/年)

〔大学入学者/年：約60万人〕

- 小学校における体験的に学習する機会の確保、中学校におけるコンテンツに関するプログラミング学習、高等学校における情報科の共通必修科目化といった、**発達の段階に即したプログラミング教育の必修化**
- 全ての教科の課題発見・解決等のプロセスにおいて、**各教科の特性に応じてICTを効果的に活用**
- 文科省、経産省、総務省の連携により設立する官民コンソーシアムにおいて、**優れた教育コンテンツの開発・共有等の取組を開始**

高等学校：約337万人（3学年）  
中学校：約350万人（3学年）



※1 Advanced Integrated Intelligence Platform Project (人工知能/ビッグデータ/IoT/サイバーセキュリティ/統合プロジェクト)  
※2 Education Network for Practical Information Technology (情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク(形成事業))

# GIGAスクール構想の実現

## GIGAスクール構想

- ✓ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す




これまでの  
教育実践の蓄積

×

ICT

=

学習活動の一層の充実  
主体的・対話的で深い学びの視点からの  
授業改善

	「1人1台端末」ではない環境		「1人1台端末」の環境
一斉学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が大型提示装置等を用いて説明し、子供たちの興味関心意欲を高めることはできる</li> </ul>	学びの深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる</li> <li>→子供たち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に</li> </ul> 
個別学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員が同時に同じ内容を学習する（一人一人の理解度等に応じた学びは困難）</li> </ul>	学びの転換	<ul style="list-style-type: none"> <li>各人が同時に別々の内容を学習</li> <li>・個人個人の学習履歴を記録</li> <li>→一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能</li> </ul> 
協働学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見を発表する子供に限られる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有</li> <li>・子供同士で双方向の意見交換が可能に</li> <li>→各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられる</li> </ul> 

コロナの影響で  
一気に実現

小中学生は  
一人一台端末

ネット利活用が重要

# 長時間利用の課題

【子どもたちの年齢別インターネット利用時間】令和4年度（平日1日あたり）

年齢	平均利用時間	年齢	平均利用時間	7時間以上の割合
2歳	120.9分	10歳	207.1分	7.1%
3歳	110.2分	11歳	207.6分	8.7%
4歳	96.6分	12歳	234.9分	13.6%
5歳	108.0分	13歳	270.3分	15.7%
6歳	121.8分	14歳	287.2分	18.6%
7歳	136.4分	15歳	320.9分	23.8%
8歳	124.7分	16歳	343.5分	27.6%
9歳	139.6分	17歳	346.0分	28.3%

※内閣府の令和4年度「青少年のインターネット利用環境実態調査」調査結果（速報）より

※令和5年2月28日、内閣府発表の令和4年度「青少年のインターネット利用環境実態調査」調査結果（速報）より

# 事件や事故に巻き込まれることも

#BAN 闇バイト 警視庁

https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/kurashi/drug/yami\_arbeit/ban\_yamiarbeit.html

→ 音声読み上げ・文字拡大 → Multilingual → 警察署一覧 → サイトマップ

警視庁 安全な暮らし 交通安全 相談・お悩み 手続き 事件・事故 警視庁について

トップページ → 安全な暮らし → 手を染めないで → 闇バイトは犯罪です → #BAN 闇バイト

## #BAN 闇バイト

更新日：2023年3月24日

### 闇バイトとは

SNSやインターネット掲示板などで、短時間で高収入が得られるなど甘い言葉で募集しています。応募してしまうと、詐欺の受け子や出し子、強盗の実行犯など、犯罪組織の手先として利用され犯罪者となってしまいます。

### 闇バイトに手を出さないために

アルバイトを探すときは「高額」「即日現金」「高額即金」「副業」「ハンドキャリアー」「書類を受け取るだけ」「行動確認・現地調査」等の言葉に注意してください。楽をして大金を稼げるアルバイトは存在しません。申込時に匿名性の高いアプリのインストールを求められる場合は、闇バイトの可能性がります。怪しいと思ったら、友人や家族、警察に相談してください。

### 一度でも闇バイトをしてしまうと

やめたいと思っても、応募のときに送った身分証明書から「家に行く」「家族に危害を加える」と犯罪組織から脅されて逮捕されるまでやめられません。逮捕されたあとに待ち受けるのは懲役や被害者への損害賠償です。もちろん犯罪グループは助けてくれません。闇バイトは使い捨てです。

### 闇バイトに申し込んでしまったら

いますぐ最寄りの警察署、警視庁総合相談センター又はヤング・テレホン・コーナーに相談してくだ

闇バイトは犯罪です

#BAN 闇バイト

このページを見ている人はこんなページも見ています

防犯アプリ Digi Police

警視庁本部代表電話の自動音声案内開始のお知らせ

高齢者の方へ

運転免許に関する情報

FAQ よくある質問

情報が見つからないときは

# 問題の要因

## 他者に迷惑をかける

- 人権侵害・誹謗・中傷
- 個人情報の流出
- 著作権・肖像権などの侵害
- 不適切な情報の発信
- セキュリティ関連不適切使用
- 闇バイトなどに加担する
- 気をつけていても起こる誤解
- 未熟なコミュニケーション

## 自身が被害に遭う

- 不正アクセス
- 個人情報の流出
- 迷惑メール・ワン切り
- 詐欺・不当(架空)請求
- わいせつ目的犯罪
- 誹謗・中傷・脅迫
- 不正な情報による不利益

## 自滅

- ネット依存・使いすぎ
- ネット情報に翻弄される
- 自分好みの狭い世界に閉じ込められる

# 子どもたちの 情報モラル問題解決力を 育てることが重要

学校・保護者が連携して  
子供がセルフコントロールできる力  
を育成する



# 情報モラルを育成することが重要

情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度の育成

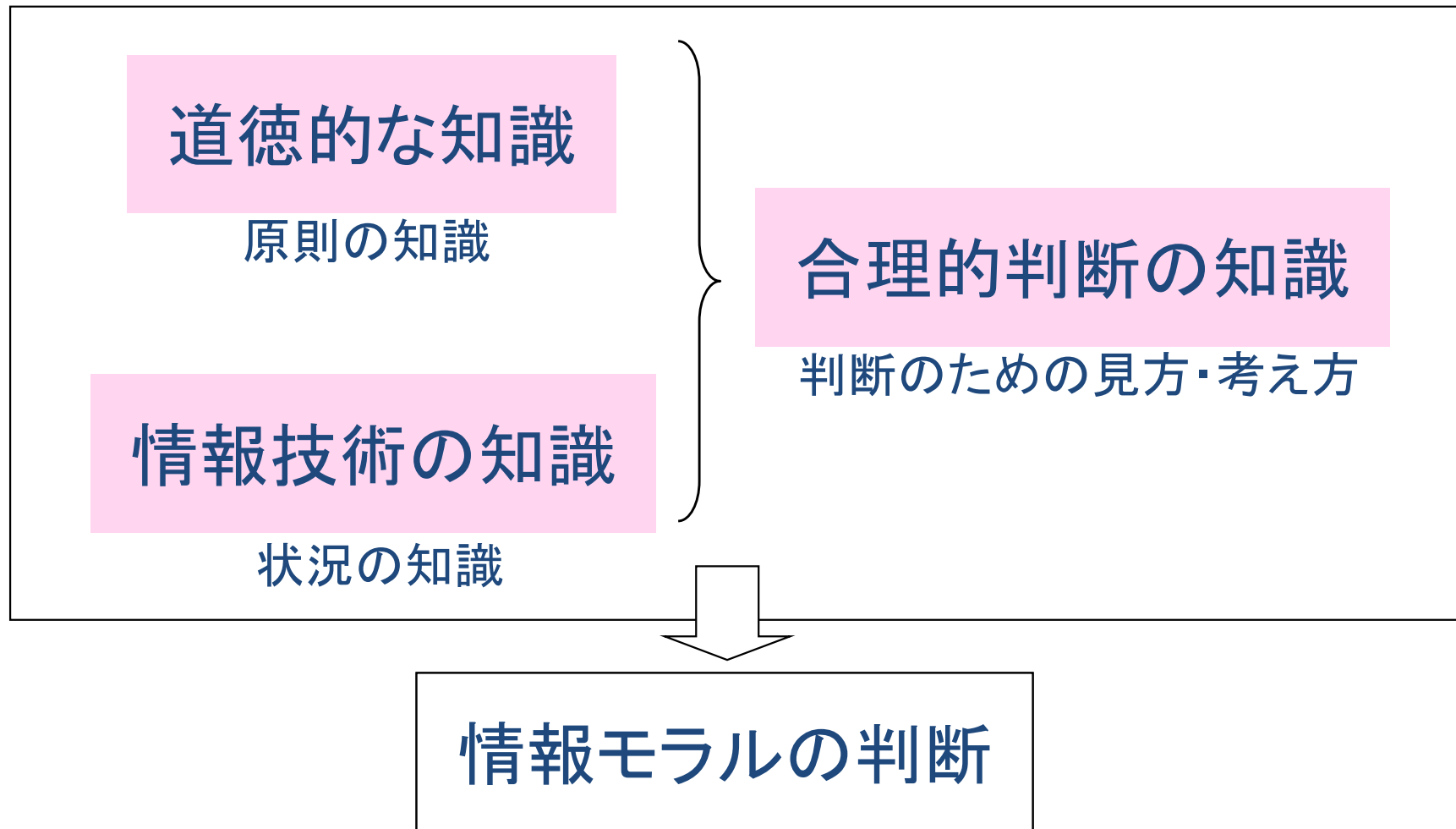
情報モラル

=

日常モラル

+ 情報技術の特性

# 情報モラル判断に必要な知識 【3種の知識】



# ネット上で問題解決をするためのコツ

## 日常モラル

人権教育

- ・ルール・約束を守る
- ・人を思いやる
- ・正しいか確かめる など

日常モラル

仕組み

考え方

両方について  
考える

## 仕組みの理解

- ・インターネットの特性
- ・心理的・身体的特性
- ・機器やサービスの特徴 など

情報教育



# インターネットの特性

- 発信した情報は、どこかに残る可能性あり(消せない)
- 匿名ではない、発信者の記録が必ず残っている

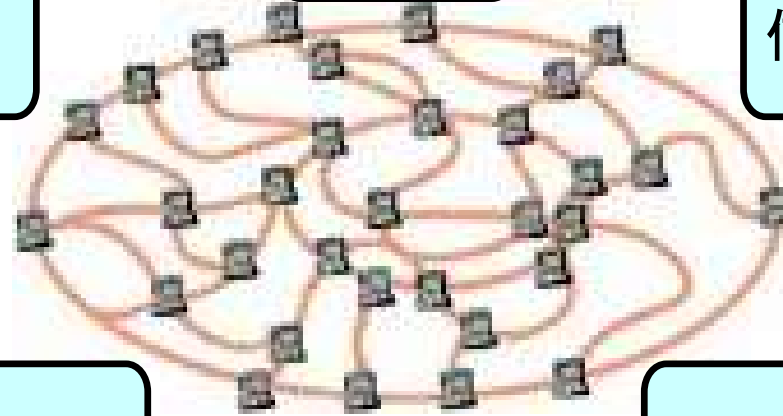
記録性

掲示板やSNSへの書き込みは、全世界に公開される(可能性がある→世界中から誰でも見ることができる)

公開性

信憑性

誰でも発信可能→いい加減な情報も多い。→正しいかどうかの確認をしなければならない。



公共性

費用は発信者だけではなく、受信者も支払わなければならない。ネットワークは公共の資源なので無駄遣いしてはいけない

流出性

接続しただけで、自分のコンピュータに侵入されたり、何かを取り出されるような危険なページがある。

# みんなと自分の明るい将来を実現するために 覚えておきたいネットの5か条

1. **ながら〇〇は命取り&時間を決めて使う**
  - ・・自分や周囲の安全を考えて使う
2. **世界中の人が見ている(見ることが可能)**
3. **一度出回った情報は絶対に消えない**
  - ・・誰が書いたか分かるので、将来に影響する
4. **情報を鵜呑みにしてはいけない**
  - ・・必ず複数の方法で調べる
  - ・・狭い世界に閉じ込められていく
5. **面と向かって言えないことは書かない**
  - ・・顔が見えないため必ず誤解が起こるので覚悟をして使う



## 内閣府

# 青少年の保護者向け普及啓発リーフレット(令和4年1月版)

## ー保護者がおさえておきたい4つのポイント(生徒編)ー

---

### (1) 法令・規約などに違反する使い方をさせない！

- ・「ついうっかり」「知らなかった」という言い訳が通じないのはリアルもネットも同じ

### (2) プライバシーを守ることは生命の安全に直結する！

- ・セキュリティ設定である程度スマホに守ってもらった上で、自分も気をつけて使う

### (3) 中高生のネット利用に潜んでいるリスクを正しく知り、一緒に考える！

- ・手軽に便利に使いこなしている世代だからこそ、気をつけておきたいことはいっぱい

### (4) ペアレンタルコントロールからセルフコントロールへ！

- ・保護者が寄り添い、見守り、  
「自分の力でコントロールできる18歳」に向けた準備を